

岡山県障害者（児）施設サービス自主評価結果（公表用）

施設名：グループハウスかわかみ

施設所在地：岡山県真庭市蒜山上福田1201-23

施設種別：共同生活援助

運営主体：社会福祉法人 慶光会

施設長名：立岡 一夫

評価月日：令和5年2月21日

| 評価項目（中項目） | 評価結果 |
|--------------------|--|
| I-1 理念・基本方針 | 評価：A 理念・基本方針は年度当初の全職員会議での確認や、ホームページ・パンフレットへの掲載により周知を図っている。また、新任職員へは入職時に研修・説明を行っている。定例会議等で理念に基づいた支援内容等を議論し、取り組んでいる。 |
| I-2 計画策定 | 評価：B 法人からの事業指針を基に年間の事業計画を策定し、支援員会議、世話人会にて管理者より理念・基本方針の実現に向けた目標を明確に伝えている。また、月例会議にて実施状況の把握・評価・見直しを行い、課題解決に向けて取り組んだが、目標達成に対してはまだ不十分な部分もある。 |
| I-3 管理者の責任とリーダーシップ | 評価：A 管理者の役割・責任は職務分掌表を用いて、年度当初の職員会議にて管理者より示している。また、利用者支援においては月例会議で現状の把握や評価・分析を行い必要な支援の明確化を図っている。 職員の支援に対する悩みや課題に目を向け、解決に向けて取り組みを検討し実践している。 重度・高齢化の状況は変わらず、業務の効率化・人員配置など引き続き検討を行っている。 |
| II-1 経営状況の把握 | 評価：A 経営状況は管理職の会議で把握を行っている。提示された経営状況を参考にしながら、今後の支援、業務についての方向性を現場職員に周知している。 |

| | |
|-----------------------|--|
| II-2 人材の確保・養成 | <p>評価：A</p> <p>働きやすい職場環境作りを目指して取り組んでおり、できるだけ希望に沿った勤務体制となるように努めている。しかし、有給休暇取得日数については個人によってばらつきがあるため、配慮が必要である。</p> <p>法人全体で新任研修を行い、研修計画に基づき年間を通して研修を行っている。正規職員登用についても基準が明確化され、管理職の評価と本人の意思表示により推薦が行われ、平等化と意欲の向上につながっている。</p> <p>人材確保については外部へ出かけ積極的に発信している。実習生の受け入れを行い、障害福祉を知ってもらう取り組みも行っている。</p> |
| II-3 地域との交流と連携 | <p>評価：B</p> <p>コロナ禍の影響により、ボランティアの積極的な受け入れを行うことはできなかった。そのような中でも外部のレクリエーション研修等に参加し、利用者の余暇支援の充実につなげた。</p> <p>利用者と地域の関わりについては、限られた範囲での外出等をできる限り行った。</p> |
| III-1 利用者本位の福祉サービス | <p>評価：A</p> <p>利用者への知識を深めるため、事業所内での勉強会や支援での困りごとを話し合い、よりよい支援につなげている。</p> <p>虐待防止に関するアンケートを職員に実施し、結果の分析と改善に向けた取り組みを行っている。</p> <p>満足度に関する調査は食生活（嗜好調査）や余暇支援の希望調査を行っている。</p> |
| III-2 サービスの質の確保 | <p>評価：A</p> <p>利用者個々に関するサービス実施状況は、支援記録システムを活用して職員間で共有を行っている。記録内容については個人差もみられるが、必要な内容を明示し、できるだけ状況が伝わるよう意識して記録している。</p> <p>ケアカンファレンスの開催は、困難ケースを検討する際に関連機関とも連携し、課題解決に向けて多角的な視点を持って取り組んでいる。</p> |
| III-3 サービスの開始・継続 | <p>評価：A</p> <p>利用開始時に契約書・重要事項説明書を取り交わし、サービス内容や料金の説明を行っている。見学、体験利用等の希望にも積極的に応じている。</p> |
| IV-1 利用者に応じた個別支援プログラム | <p>評価：A</p> <p>半期毎に各利用者のモニタリングを行い、利用者・家族の要望を確認し、個別支援計画の策定や見直しの際に取り入れている。また、見直しを検討する会議を開催し会議に参加できなかった職員へも伝達を行っている。</p> <p>個別支援計画は支援の目標・方法・期間を定め、サービス開始前に説明を行っている。</p> |
| IV-2 日常生活支援サービス | <p>評価：A</p> <p>嗜好調査を実施し、献立に反映している。医療・給食会議で個々の状況を把握し、食事形態や環境の整備、介助方法の検討を行っている。検討したものは支援員会議にて周知し、随時対応している。</p> <p>余暇についてはコロナの影響を考慮し、利用者の意見を聞きながら事業所内や近隣施設等で小規模な行事を楽しめるよう、工夫して行った。</p> <p>日常での支援はあいさつや呼称について振り返り、意識することで向上が見られた。また、利用者主体の生活が送れるよう取り組んだ。</p> |

| | |
|---------------|--|
| V-1 生活環境の整備 | <p>評価：A</p> <p>高齢利用者の支援を主体としたグループホームでは、バリアフリーのフロアだけでなく、家具の配置等わかりやすく動きやすい動線作りを心掛けた。高齢者だけでなく、精神・発達障害など多様化する個々のニーズを受け止めるため、フロア毎に入居者の障害特性が大きく違わないよう配慮した。</p> <p>居室は全室個室となっており、プライバシーに配慮できる環境であるとともに、プライベートな時間が持てるよう配慮できている。居室内についても利用者の確認の上整理整頓を行い、利用者が安心・安全に生活できるように今後も継続して取り組んでいく。</p> |
| VI-1 緊急時の対応 | <p>評価：A</p> <p>避難訓練の実施、救急蘇生法講習会の開催など、職員が緊急時に落ち着いて迅速に対応できるよう、定期的な訓練・講習会を開催している。地域の自治会や団体等との連携はコロナの影響もあり実施できなかったが、今後、可能な範囲と可能な形を検討していく。</p> |
| VII-1 就労意欲の醸成 | 非該当。 |

* 着眼点の項目等を参考に、具体的な実施（達成）の状況や未実施の場合はその理由など、評価における根拠とともに、今後の改善計画（方針）なども記載してください。

* 「VII-1 就労意欲の醸成」欄は、授産施設のみが該当します。